

石器時代（旧石器時代）

日本がアジア本土とつながっていた少なくとも 35,000 年前から、人間は日本に住んでいます。これらの初期の人間は、遊牧民の狩猟採集民であり、1 つの野営地に長期間滞在することはめったになかったと考えられています。しかし、彼らは石器を作って使用していました。

日本の火山性土壌で 1 万年以上前の骨を見つけることはめったにないので、石器時代を研究するために使用された証拠は石です。遺跡を特定するために、考古学者は石器、石の破片、石器製作活動の痕跡を探します。

日本で最初に発見された石器時代の野営地の 1 つは、藤岡の北東約 15km にある岩宿にあります。この 1946 年の発見により、紀元前 10,000 年以前に日本に人間が居住があったことが確認されました。

岩宿での発見以来、藤岡周辺をはじめ、群馬県の他の地域でも石器時代の遺跡が発見されています。考古学者は、今日の海面は先史時代よりも高いため、日本のほとんどの石器時代の人々は現在浸水している沿岸地域を占領したと理論づけています。しかし、利根川溪谷の自然の豊かさと多様な野生動物の存在は、後年には石器時代の住民やその他の先史時代の人々を惹きつけていた可能性が高いです。

博物館に展示されている遺物には、石の斧や槍の穂先、ナイフとして使われていた石などがあります。